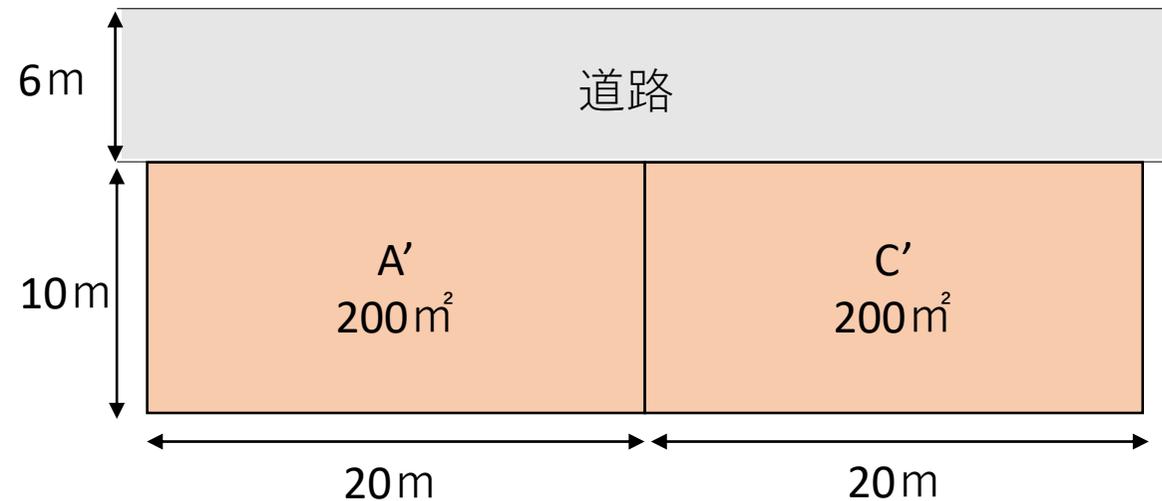
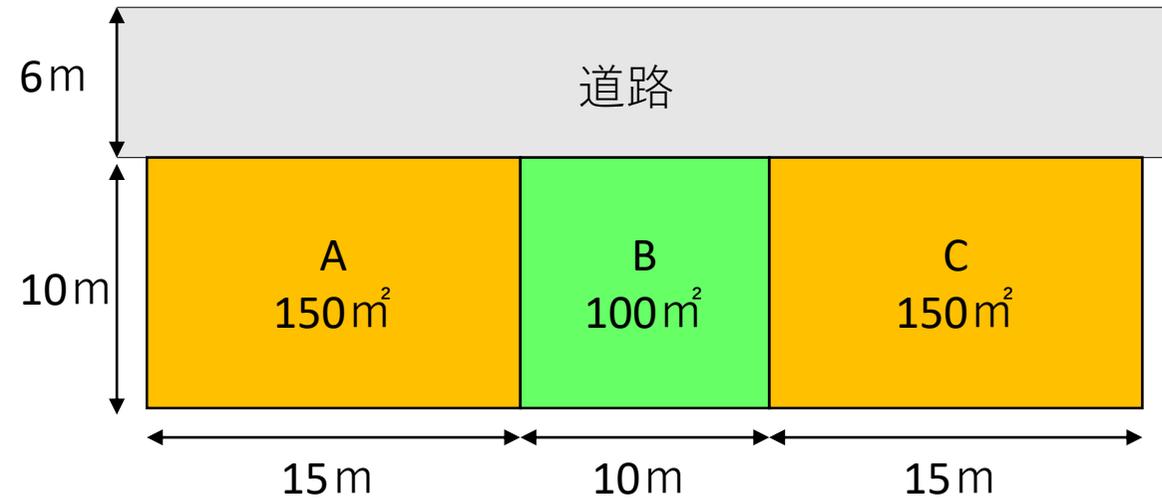


# 補助制度利用イメージ図



## 事例 1

比較的狭小な宅地A,Cの間にある利用されていない雑種地Bがある。

雑種地Bを50m<sup>2</sup>ずつに分割したうえで宅地A及びBに合筆する。

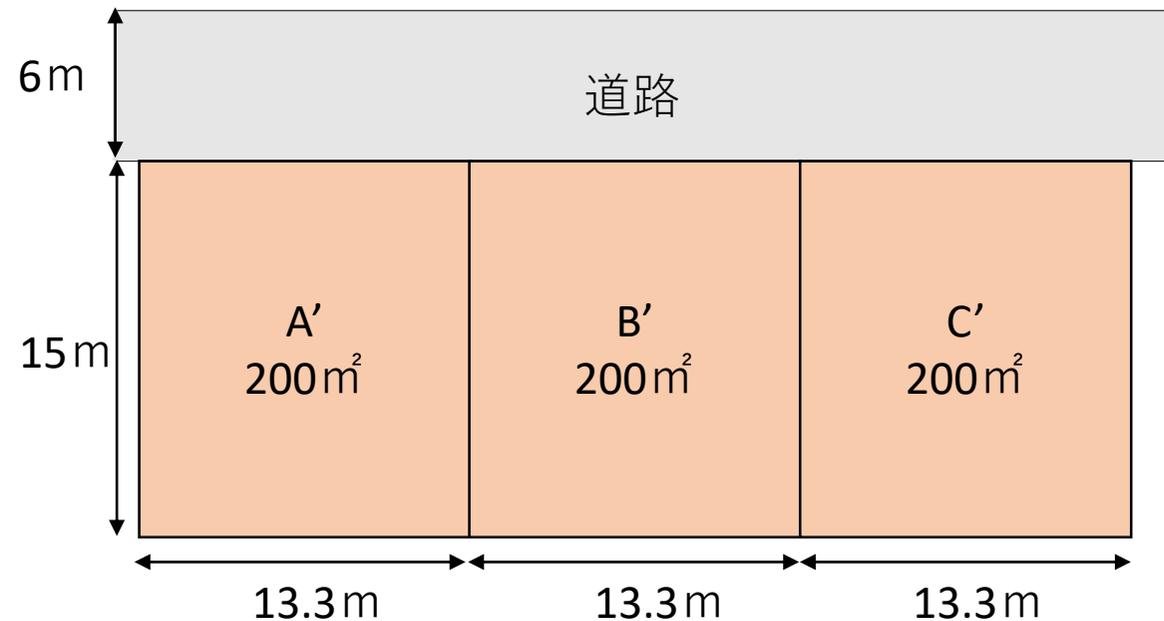
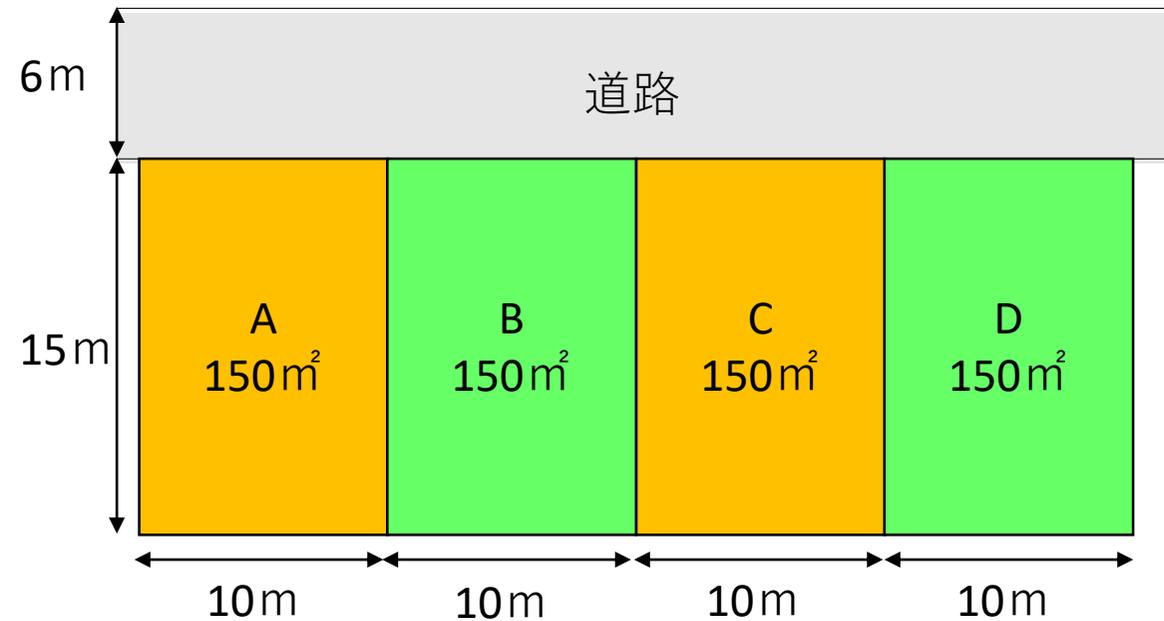
結果、面積が200m<sup>2</sup>となる宅地A'及びC'が完成し、狭小な宅地及び低未利用土地の解消と良好な宅地の創出される。

交付補助額 ※まちなか居住区域の場合

- ・ 整序後敷地相当数  $100/200 = 0.5 \rightarrow 1$
- ・ 区画整序  $25\text{万円} \times 1 = 25\text{万円}$
- ・ 接道  $5\text{万円} \times 2\text{区画} = 10\text{万円}$
- 合計  $35\text{万円}$

※空家等があり除却した場合は、空家等のあった区画数×50万円を補助額に追加

# 補助制度利用イメージ図



## 事例 2

比較的狭小な宅地A,B,C,Dがある。  
B及びDは現在低未利用土地となっている。

宅地Aに宅地Bのうち50m<sup>2</sup>を合筆、宅地Bの残り100m<sup>2</sup>に宅地Cのうち100m<sup>2</sup>を合筆、宅地Cの残りと宅地Dを合筆する。

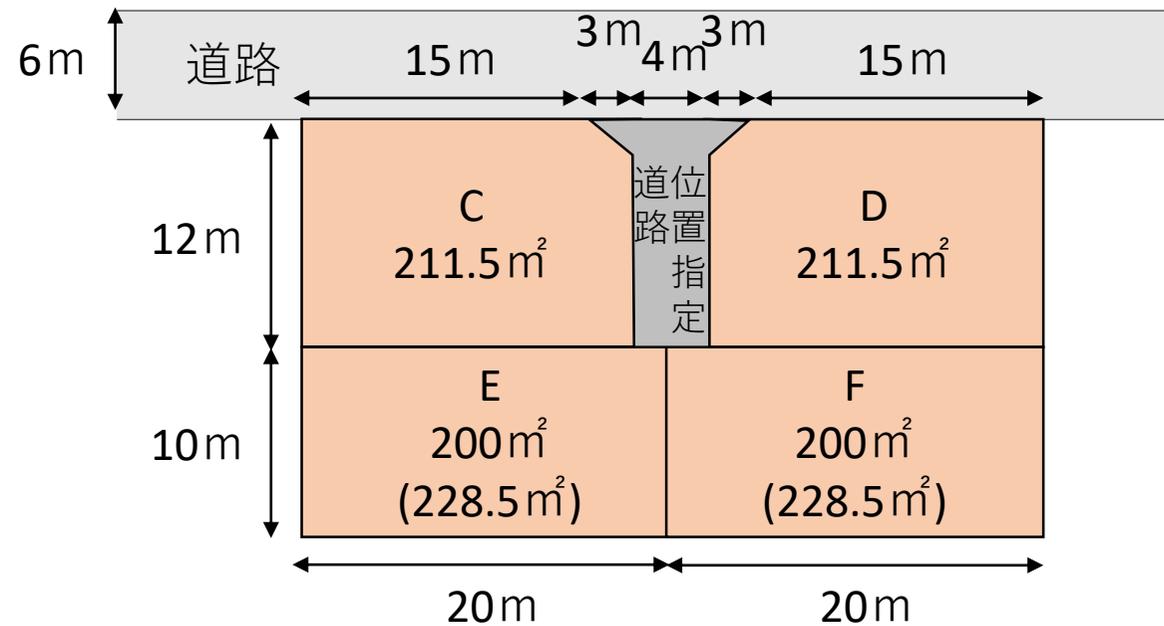
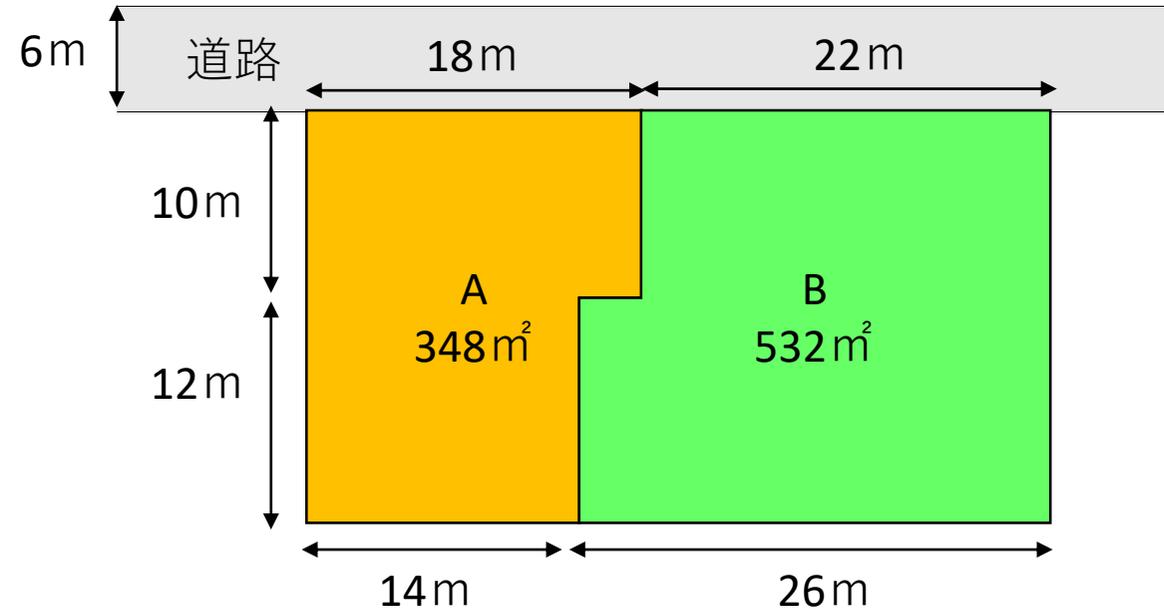
結果、面積が200m<sup>2</sup>となる宅地A'、B'及びC'が完成し、狭小な宅地の解消及び良好な宅地の創出される。

交付補助額 ※まちなか居住区域の場合

- ・ 整序後敷地相当数  $300/200 = 1.5 \rightarrow 2$
- ・ 区画整序  $25\text{万円} \times 2 = 50\text{万円}$
- ・ 接道  $5\text{万円} \times 3\text{区画} = 15\text{万円}$
- 合計  $65\text{万円}$

※空家等があり除却した場合は、空家等のあった区画数×50万円を補助額に追加

# 補助制度利用イメージ図



## 事例 3

比較的広大な宅地A及び雑種地Bがある。

宅地A及び雑種地Bについて分筆等を行い、幅員4mの位置指定道路を整備するとともに土地の整序を行う。

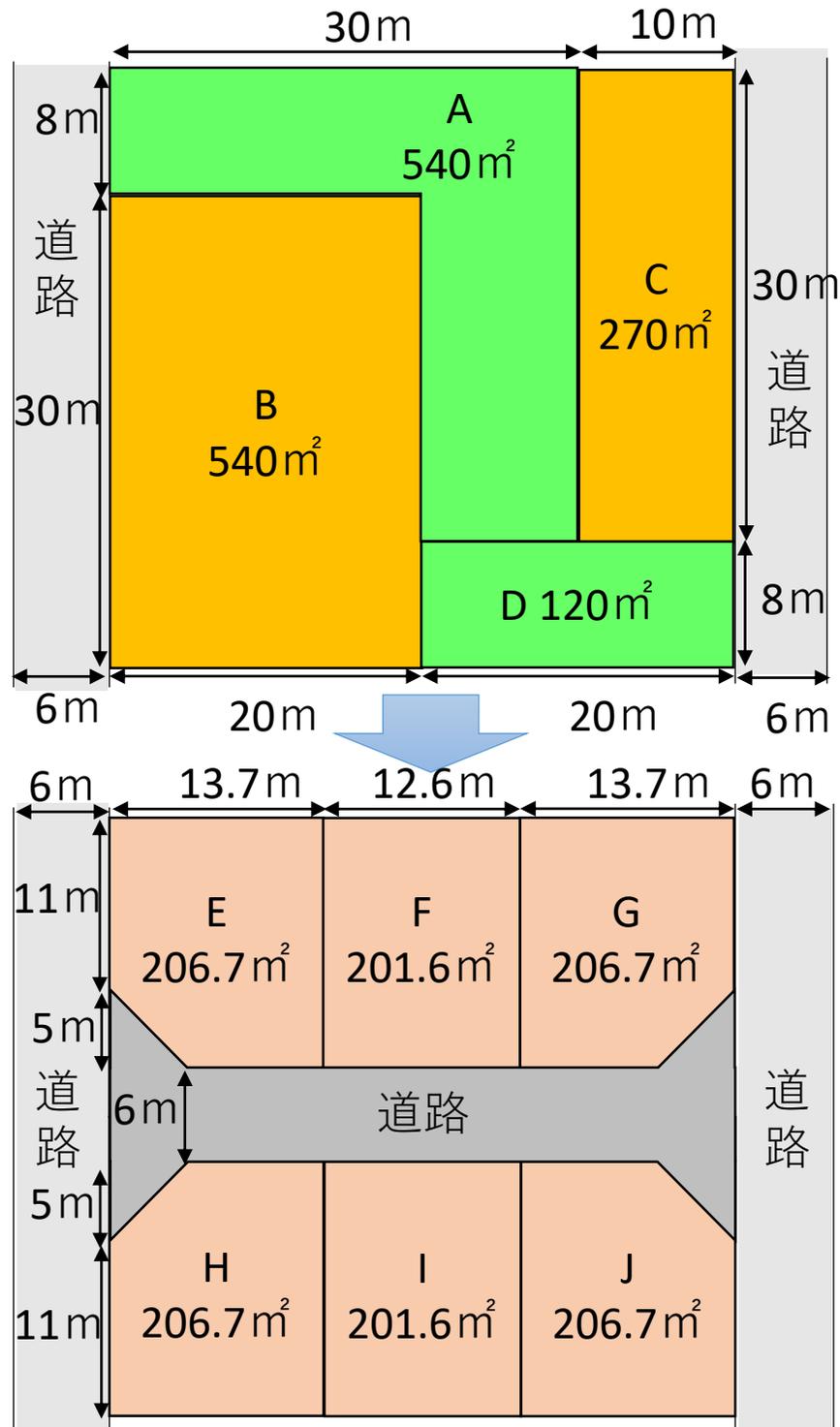
結果、それぞれの居住に係る面積が、約200m<sup>2</sup>となる宅地C,D,E,Fが完成し、良好な宅地の創出される。

交付補助額 ※まちなか居住区域の場合

- ・ 整序後敷地相当数  $532/200 = 2.66 \rightarrow 3$
- ・ 区画整序  $25\text{万円} \times 3 = 75\text{万円}$
- ・ 接道  $5\text{万円} \times 2\text{区画} = 10\text{万円}$
- 合計  $85\text{万円}$

※空家等があり除却した場合は、空家等のあった区画数×50万円を補助額に追加

# 補助制度利用イメージ図



## 事例4

左図のような宅地や雑種地が混在する区域について土地の整序を実施する。

事業面積が比較的広大であるため敷地の中央部に道路を整備し、土地の整序を行う。

結果、居住に係る面積が約200m<sup>2</sup>となる宅地E,F,G,H,I,Jが完成し、良好な宅地の創出がなされる。

交付補助額 ※まちなか居住区域の場合

- ・ 整序後敷地相当数  $660/200 = 3.3 \rightarrow 4$
- ・ 区画整序  $25\text{万円} \times 4\text{区画} = 100\text{万円}$
- ・ 接道  $5\text{万円} \times 6\text{区画} = 30\text{万円}$
- 合計  $130\text{万円}$

※空家等があり除却した場合は、空家等のあった区画数  $\times 50\text{万円}$  を補助額に追加

# 補助制度利用イメージ図

## 事例5

奥行きのある土地の整序は、道路配置に留意すること

## 理由

左下図は、宅地F,G,H,Iが旗ざお地となっているため、補助対象とならない。

右下図のように、奥となる敷地に対し位置指定道路を整備することで補助対象とすることができる。

